

写真のシリーズの勧め

今回の講演は欧米の美術館に収蔵されている「Archaic Future」という写真集を完成するまでの工程を紹介します。この作品集は島根県の人と風景や物を撮影するプロジェクトをまとめた湿板写真のシリーズです。その企画から製本までの段取りをすべて説明します。

写真家が腕を上げるための一番のコツは、1つの作品プロジェクトが完成するまで頑張ることでしょう。これは僕の経験からいえる。若いころに出会ったユージン・スミスのような写真家になりたかったが、人の肖像を撮るのが苦手だった。照明の使い方がわからないし、人に接することにも違和感があった。自分の弱点を乗り越えるため、私が最初にやったのは英字新聞の編集者に人物インタビュー連載企画を持ち込み、経験を積んだ。

それから30年の経験を重ねた現在、肖像写真の撮影技術はもう怖くない。でも、新しいプロジェクトが始まると必ず怖いことがある。それは自分自信の内面的なことだ。何を撮りたいのか、なぜその被写体を選ぶのか、自分自信に向き合うと必ず悩みがあり、怖いこともある。そうして怯えながらも取り組み続けているうちに自分の作家性が見えてくる。

今回の講演では美術館に収蔵されている作品が出来上がるまでの精神的な工程も紹介する予定です。